

年長児保育案

うみ組 男児16名 女児19名 計35名
担任 河津 花奈 鳩宿 恵理香

1 幼児の実態

子どもたちは、友達と遊ぶことを楽しみにしており、友達や教師に元気にあいさつする姿が見られる。一日の流れを把握し、「〇〇君、まだ来てないかな」「お外に行つて来ます」「〇〇ちゃん、昨日の続きしよう」と、遊びたいこと、遊びたい友達、遊びたい場所等を考えて好きな遊びをしている。最近では、気の合う友達ややりたい遊びが重なる友達と誘い合つて、ごっこ遊びや体を動かす遊び、製作など自分たちのやりたい遊びを見つけて楽しんでいる子どもたちである。

園庭では、落ち葉や木の実などが落ちてきており、友達とそれらを見つけることを楽しんだり、どんぐりごまやお店屋さんごっこなどの遊びに用いたりしている。また、友達と誘い合つて、大人数で遊ぶことも増えてきており、鬼ごっこやサッカー遊びなどをして、園庭を駆け回っている。ときには、ルールをめぐっていざこざもあるが、自分の思いを主張したり、相手の思いを受け止め調整したりして、ルールを互いに確認し合つて、大人数で遊ぶことを楽しむことができるようになってきている。砂場では、友達と話し合つて、山や川をつくったり、交代で、バケツに水を汲んできて水を流し、その流れや水が溜まったあとの砂の感触を楽しんだりしている。

室内では、段ボールやマットなどを使って自分たちの空間をつくり、おばけ屋敷ごっこや家族ごっこ、お店屋さんごっこを楽しんでいる。その場所を拠点として、「隣におばけレストランを開こう」「お店が並んでいるから全体をうみ組商店街にしよう」など、友達が楽しそうな遊びをしていると、仲間に加わつて、一緒にアイデアを出し合いながら、遊びを何日も継続させ、発展させることができるようになってきている。遊びを進める中では、友達を客として招待するなど相手を意識した遊びを組み立てる姿も多くみられるようになってきた子どもたちである。

2 遊びの価値とねらい

「友達と遊ぶことが楽しい」と感じている子どもたちである。そこで、子どもが楽しく遊ぶための方法を自分たちで考えながら、友達と遊び進めていく姿を大切にしたい。

お店屋さんごっこやレストランごっこでは、「こんな風にしたい」というイメージを互いに話し合い、話し合いながら形にしていく楽しさを味わうことができると考える。また、それぞれが『お店屋さん』を展開している姿を知らせ、保育室を『うみ組商店街』として環境を整えてほしいという子どもたちの思いから、お店を出している人がみんな仲間となつて進めることができる遊びとして大切にしたい。その中で、「お客さんに来てもらうためには」「お客さんを楽しませるためには」などのお客さんとして来てくれる友達を意識しながらアイデアを出し合い、友達と遊びを進めることができると考える。

鬼ごっこやサッカー遊びでは、たくさんの友達と一緒に遊ぶことができる遊びと考える。楽しく遊ぶためには、一緒に遊ぶ友達でルールを共有する必要がある。ルールの認識の違いからいざこざになることもあるが、友達と話し合いながら、自分とは異なる友達の意見を受け入れ、ルールを整理しながら進めていくことができる遊びとして大切にしたい。また、自分たちなりのルールを考え、それらを共有して遊ぶ楽しさを味わえる遊びとしても大切にしたい。

友達と遊びを進めていく中で、友達の考えを受け入れたり、自分の考えと組み合わせたりすることでより遊びが楽しくなることを実感していく姿を大切にしたい。こうした経験を通して、友達と協力し、共通の目的をもって遊びを進める楽しさを存分に味わうことへとつながっていくと考える。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- 友達と話し合い、協力し合いながら目的をもって楽しく遊ぶ。
- 深まりゆく秋や初冬の自然を積極的に自分たちの遊びに取り入れて楽しむ。

(2) 内容

- 自分たちで工夫して園生活を楽しむ。
- 遊びの進め方や決まりなどを自分たちで話し合い、進めようとする。
- 遊びに必要なものを用意したり、場を工夫したりしながら互いのイメージを出し合い、表現し合うことを楽しむ。
- 友達と一緒に協力したり、相談したりしながら遊びを進め、やり遂げる充実感を味わう。
- 友達と体を動かして遊ぶ中で、役割を分担しながら、共通の目的を見付けて遊びを楽しむ。
- 自分たちの身の回りにある自然に興味をもってかかわり、自然物を使っていろいろな遊びを楽しむ。
- 食べ物の一連の成長について知り、その不思議さを感じたり、自然の恵みに感謝したりする。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 友達と話し合いながら、協力してつくったり遊んだりすることを楽しむ。
- 深まりゆく秋を感じ、木の実や落ち葉などを見付け、自分たちの遊びに取り入れて楽しむ。

(2) 内容

- 友達と鬼ごっこやサッカー遊びをする中で、ルールを確認し合い、共通のルールで遊びを楽しむ。
- 友達と一緒に協力したり、相談したりしながらお店屋さんごっこや体を動かす遊びを進めていく。
- 木の実や落ち葉を使ってお店屋さんごっこやレストランごっこなどの遊びを楽しむ。

(3) 保育に当たって

ア 人とのかかわり

- 楽しく遊ぶための方法を話し合う場面を大切にしながら、必要に応じて、意見を整理したり、子ども同士の橋渡しをしたりして、共通の目的やルールで遊びが進められるようにする。
- 年下の友達をお客さんとして誘うときの言い方や接し方を教師も一緒に考え、互いに楽しく遊ぶことができるように言葉掛けを行う。
- 相手にとって気持ちのよい言い方や態度などがについて、必要に応じて適切な方法を知らせる。

イ ものとのかかわり

- イメージするものをつくることができるように、自分で選べるように材料を準備しておいたり、子どもと相談したりしながら適切な材料を選んだりする。
- 友達とイメージするものが異なったときは、自分たちで話し合う姿を見守りながら、どちらのアイデアも聞き、互いのよさを生かすことができるように言葉掛けを行う。

ウ 自然とのかかわり

- 木の実や落ち葉を遊びに取り入れようとする姿を大切に、つくりたいもののイメージに合う材料を用意したり提案したりする。
- 花の世話や育てた米の脱穀を通して、開花や収穫を味わうことを楽しみにしながら、自然への関心が高められるような言葉掛けを行う。

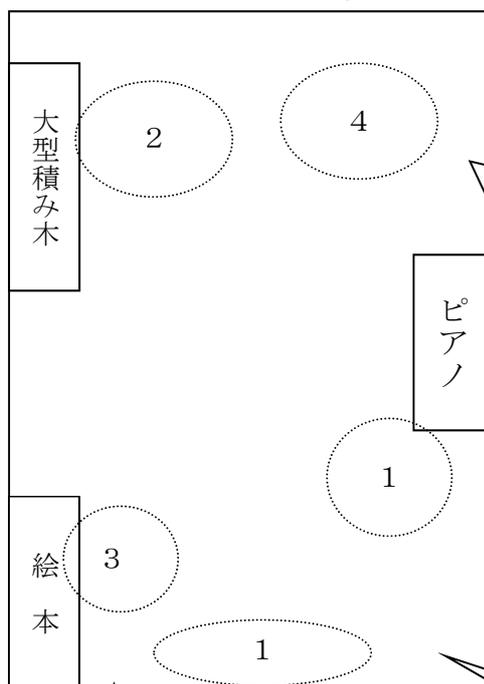
(4) 保育の流れ

時刻	子どもの活動	教師の援助と留意点
8 : 5 5	☆ 登園する。 ・ あいさつをする。 ☆ 朝の支度をする。 ・ シールを貼る。 ・ 連絡帳を出す。 ・ タオルを掛ける。 ・ 一日の流れを確認する。	○ 一人一人の子どもたちと笑顔であいさつを交わしたり、楽しく会話したりしながら、今朝の子どもたちの健康状態を把握する。 ○ 友達や教師に進んであいさつをしたり、友達同士であいさつをしたりする姿を認め、楽しく一日が始まるようにしたい。 ○ 一日の流れが分かるようにしておき、見通しをもって遊びが進められるようにする。
9 : 1 0	☆ 好きな遊びをする。 ・ ごっこ遊びをする。 ・ 体を動かして遊ぶ。 ・ つくって遊ぶ。 ・ 自然と触れ合う。 ・ 砂や水を使って遊ぶ。 ・ 大型積み木で遊ぶ。 など	○ 子どもたちが遊びを楽しめるように必要な材料・用具などを揃えておく。子どもたちの実際の遊びに応じて柔軟に環境を整えていく。 ○ ごっこ遊びでは、友達同士でアイデアを出し合い、話し合っって遊びを進める姿を見守るようにし、教師も時折お客として遊びに加わる。 ○ 体を動かす遊びでは、共通のルールを話し合い、ルールがある楽しさを味わえるようにする。また、それぞれの思いに折り合いをつけながら、展開していけるような言葉掛けを行う。 ○ 遊びの中でぶつかり合いや意見のくい違いが見られたときは、一人一人の思いを受け止め、表現の仕方を共に考えながら子どもたち同士で話し合い、解決できるようにしていく。
1 0 : 1 0	☆ 片付ける。 ☆ 帰りの支度をする。 ・ 用便を済ませる。 ・ タオルと連絡帳をしまう。	○ 片付けでは、子どもたちが自分たちで取り組む姿を認め、教師も一緒になって取り組み、きれいになった心地よさを一緒に味わうことができるような言葉掛けをする。 ○ 自分の片付けが終わったら、まだ片付けが終わっていないところや年下の友達の手伝いができるように促す。 ○ トイレ・手洗いうがいや帰りの身支度を進んで行う姿を認めていきたい。
1 0 : 3 0	☆ 降園活動をする。 ・ 手遊び歌をする。 ・ 絵本をみる。 ・ 当番の発表 ・ 先生の話聞く。	○ 降園時の活動では、一緒に歌を歌ったり、絵本を見たりして楽しく過ごせるようにする。 ○ 子どもたちの遊んでいたことを話題にしながら、今日一日の楽しかったことなどを振り返り、来週の園生活に期待をもって降園できるようにしたい。
1 1 : 0 0	☆ 降園する。	

〈プレイルーム〉

1 ごっこ遊びをする

- つくったおばけを飾ったり、驚かせる役になったりして、おばけ屋敷ごっこをする。
- 段ボールで自分たちの部屋や基地をつくる。
- 折り紙などでつくったお菓子を売るお店屋さんごっこをする。
- おばけ屋敷の隣にレストランを開き、お客さんを招待してレストランごっこをする。
- ◆ 教師もお客さん役として仲間に加わり、楽しく遊びが進められるような言葉掛けをする。
- ◆ 友達同士で、アイデアを出し合う姿を大切にし、必要に応じて、意見を整理したり、材料を提案したりする。



2 大型積み木で遊ぶ

- 大型積み木やマット、跳び箱を組み合わせて、基地をつくる。
- 基地にシートを敷いたり、ままごとセットをもってきたりして、家族ごっこやお店屋さんごっこをする。
- ◆ 大型積み木は高く積み上げたり、崩れたりしないように安全面に配慮する。
- ◆ 自分たちの基地をつくりあげた喜びに共感したい。大型積み木などを使いたい友達がいたら、一緒に使ったり、譲り合ったりするように言葉を掛ける。

3 絵本を楽しむ

- 自分の好きな絵本を一人で見たリ、友達と見たりする。
- ごっこ遊びのなかで、絵本を見る。
- ◆ 絵本を見ている様子を見守ったり、教師も子どもと一緒に楽しんだりしていきたい。

4 つくって遊ぶ

- お店屋さんごっこに必要な台を段ボールや牛乳パックを使ってつくる。
- 友達につくり方を聞いたり、手伝ってもらったりして、みんなで作る楽しさを味わう。
- ◆ 段ボールを切るところなど、子どもだけでは難しいところは、手伝ったり、アドバイスをしたりしながら、思いが形となるように援助する。
- ◆ はさみの使い方などの安全面に配慮し、必要に応じて声を掛ける。

(5) 予想する遊び (○：子どもの姿 ◆：教師の援助)

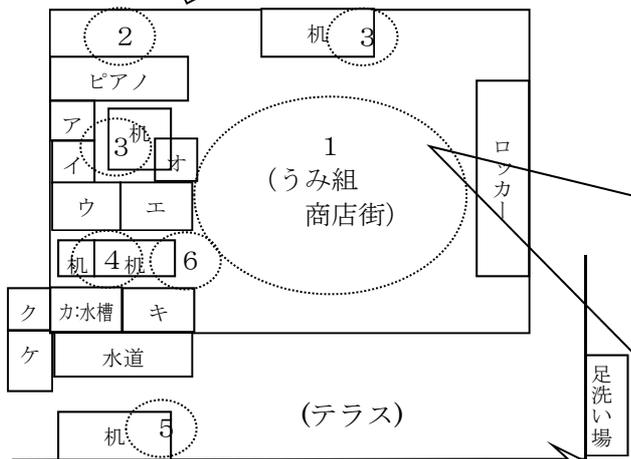
(保育室) 2 ピアノで遊ぶ

- 友達とピアノで知っている曲を弾いたり、音を楽しんだりする。
- ◆ ピアノを弾いたり、歌ったりしている姿を認め、友達とのかかわりが深まる言葉掛けをしたい。

1 ごっこ遊びをする

- お店を並べて、『うみ組商店街』として、お店屋さんごっこをする。
- 各グループのお店を開く場所を決める。
- お店で使う道具や品物をつくる。
- 看板や値札などをつくる。
- これまでにつくった商品を並べる。
- 店員の衣装をポリ袋でつくる。
- 年下の友達をお客さんとして招く方法を考える。
- お店屋さんごっこに必要なお金をつくる。
- ◆ 保育室全体を『うみ組商店街』として環境を整え、商店街の仲間として遊びを進めていくことができるように言葉を掛ける。
- ◆ 友達同士のやりとりを見守りながら、必要に応じて材料を提案する。
- ◆ お客として教師も仲間に加わり、遊びを進めていけるような言葉掛けをする。

(保育室)



- ア：ままごと道具 (皿, コップ, コンロ, 鍋, フライパンなど)
- イ：ままごと道具 (エプロン, スカート, 人形, シーツ, ふとんなど)
- ウ：ペットボトル, 空き箱, ロールペーパー芯, カップ, 牛乳パックなど
- エ：セロハンテープ, カセットテープ, ラジカセ, 楽器, 折り紙, どんぐり, 綿, フェルトなど
- オ：カルタ, こま, お手玉
- カ：水槽 (たなご)
- キ：花紙, ガムテープ, モール, 紙皿, ポリ袋, はさみ, ペン, 鉛筆, ストロー, 紙わっか
- ク：虫網
- ケ：プラスチック容器, すり鉢

3 絵本や紙芝居をみる

- 絵本コーナーに置いてある絵本を友達とみる。
- 友達がつくった紙芝居をみる。
- ◆ 絵本の世界に浸っている様子を見守る。
- ◆ 必要に応じて、一緒に子どもがつくった紙芝居をみる。

4 つくって遊ぶ

- 空き箱やトイレットペーパー芯, カップなどを使って, バッグや人形など自分の好きな作品をつくる。
- 自由画帳とクレヨンやサインペンで自分の好きな絵を描く。
- 折り紙で好きなものを折ったり, 友達に教えてあげたり, 折り紙の本を見ながら折ったりする。
- 画用紙に, 絵を描き, 紙芝居をつくる。
- ◆ つくりたい思いが形となるように, 材料を十分に準備しておく。
- ◆ 紙芝居は, 降園活動時に教師が読んでみんなに紹介する。
- ◆ つくりたい思いを受け止め, 賞賛したり意欲が高まる言葉掛けをしたりする。

5 色水をつくって遊ぶ

- 花紙の色を組み合わせせて, 色水をつくり, お店屋さんごっこや家族ごっこの遊びに使う。
- 葉っぱをすり鉢でつぶして, 色水をつくり, 容器に移し替える。
- ◆ 教師も仲間に加わり, 遊びを進めていけるような言葉掛けをしたい。

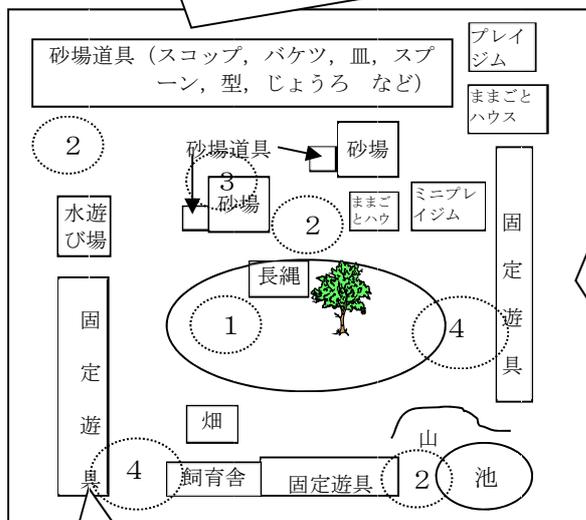
6 音楽で遊ぶ

- ラジカセで音楽を流し, 踊ったり, 歌ったりする。
- トライアングルやタンブリンをならして, リズムを楽しむ。
- ◆ 発表をする場合は, お客さんとなって, 発表を見て, 一緒に楽しみたい。

〈園庭〉

1 体を動かす遊び

- 友達とルールを確認しながら、鬼ごっこを楽しむ。
- 友達とかけっこやリレーごっこをする。
- ボールを蹴って、サッカー遊びを楽しむ。
- 友達と縄を回す順番を交代しながら、なわとび遊びをする。
- フラフープを回す時間を友達と競ったり、電車ごっこをしたりする。
- ◆ ルールを確認する場面では、子ども同士の意見を整理したり、相手の思いを伝えたりして、ルールを共有し、継続して遊ぶことができるようにする。
- ◆ 子ども同士で話をする場面を大切に、相手に伝わる言い方や方法を必要に応じて、伝えるようにする。
- ◆ 教師も仲間に加わり、一緒に遊ぶことで共通のルールがあると楽しく遊ぶことができることに共感したい。



3 砂や水を使って遊ぶ

- 砂に水を混ぜて、型を抜き、料理に見立てて遊ぶ。
- 砂場に山をつくり、上から水を流して水路をつくって遊ぶ。
- 友達同士でバケツに水を交代で汲み、水路に水を流す。
- 水を流した後や水を溜めたときの砂の感触を味わう。
- 友達同士で進め方を相談しながら穴を掘ったり、水路をつくったりする。
- 砂に混ざっている貝殻を集める。
- ◆ 子どもたちの遊びを進めていく様子を見守りながら、必要に応じて仲間に入る。
- ◆ 体調や天候を考慮して、水の使い方や服装について考えることができるような言葉を掛ける。

2 自然に親しむ

- 落ちているドングリなどの木の実を拾って、遊びに使う。
- 育てているヒヤシンスの様子を観察したり、水をあげたりする。
- 園庭や池で、魚や虫がいないか探す。
- 飼育舎のウサギに餌をやったり、ニワトリやカメの様子見たり、絵を書いたりする。
- 収穫した米の脱穀をする。
- 雨音を聞いたり、容器に雨粒を集めたりする。(雨天時)
- ◆ 動植物を見つけたり、捕まえたりすることができた喜びに共感したい。
- ◆ 教師も一緒に動植物の様子を見たり、世話をしたりして、変化に気付くような言葉掛けをしたい。
- ◆ 全園児で収穫した米を味わう「おにぎりパーティー」への期待感をもたせるような言葉掛けをする。
- ◆ 体調や天候を考慮しながら、様々な場所の雨粒が落ちている様子に気付くような言葉掛けをする。(雨天時)

4 固定遊具で遊ぶ

- ぶらんこを高く大きく漕ごうとする。
- ロープブランコに乗って、友達と揺れを楽しむ。
- 友達と鉄棒で前回りをしたり、登り棒で高い場所を目指して登ったりする。
- 木製遊具や二階建てハウスを基地にして、家族ごっこや鬼ごっこをする。
- プレイスカルプチャーやすべり台を滑ったり、駆け上ったりして友達と楽しむ。
- ◆ 子どもたちの挑戦する姿を見守り、意欲が高まるように言葉を掛ける。
- ◆ 必要に応じて遊具の使い方や順番について子どもたちと確認していく。危険な使い方や遊び方には、すぐに声を掛けるようにする。